

含翠園

GANSUIEN

明治より岩内に愛される
おもてなしの日本庭園

含翠園

〒045-0013
北海道岩内郡岩内町字高台315番地4

- ◆ 開園期間：4月下旬～11月上旬まで
- ◆ 開園時間：9:00～17:00
(展示棟9:30～16:30)
- ◆ 休園日：月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)

※ライトアップイベント予定

- ・観桜(5月上旬・18:00～20:30)
- ・岩内神社例大祭(7月7日～9日・19:00～21:00)
- ・観楓(10月下旬・18:00～20:30)



お問い合わせ 岩内町役場 建設経済部 建設課
〒045-8555 北海道岩内郡岩内町字高台134番地1
TEL 0135-67-7097(直通)

2025.04

造園後から幾度かの改修を重ねて池の形は変わっていますが、借景の山々や左右の灯籠は今も変わりません。中島で腰掛ける人物が造園者の梅澤市太郎です。

門かぶり松は縁起が良いと言われます。古くから残る含翠園の松の下をくぐると幸せになれるかもしれません。

石橋の石は、ヤン衆(ニシン漁師)が雷電地区からコロ引き(石の下で丸太をローラー代わりにして運ぶ方法)で運搬してきたものです。石橋の下にはコロが残っています。

この広場では、桜の開花時期になると、昔から花見の広場としてよくわれ、町民に喜ばれていました。

含翠園 案内図

- ① 展示棟
- ② バリアフリートイレ
- ③ 男子トイレ
- ④ 女子トイレ
- ⑤ オストメイト用設備
- ⑥ ベビーシート

岩内神社
第二鳥居

含翠園は古くは迎賓の場として使われていた歴史があります。

造園当時から残っており、園内で一番大きくシンボリックな樹木です。

昔は、湧水や川の水を使って池の水を供給していたため水が豊富でした。令和の改修では、埋もれていた滝を掘り起こし復元しました。

池の奥は築山になっており、風景を楽しむ他に集合写真撮影の場所となっていました。

園内の見所



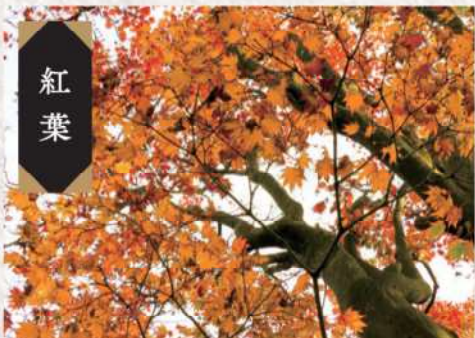
4月上旬～5月上旬頃にかけて、一面を青く染め春の訪れを告げます。



4月下旬～5月中旬頃にかけて、エゾヤマザクラ、ソメイヨシノ、ヤエザクラ等の桜を楽しめます。



築山からの園内を見下ろす景色もまた絶景です。



秋になるとモミジやカエデ等の木々が綺麗に色づき、紅葉が楽しめます。

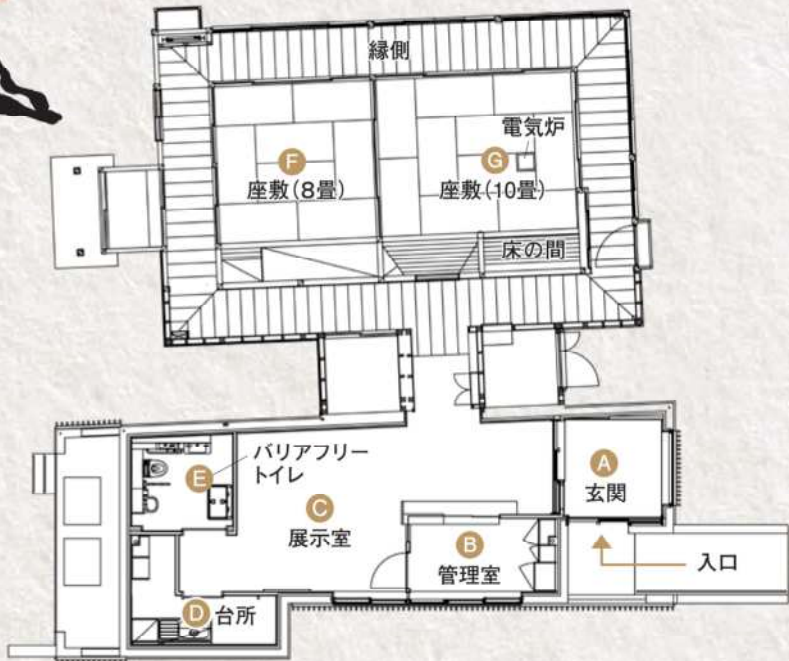


築山の上にあるクリの木は、秋にクリを実らせます。



座敷から見えるイチョウの木は、秋になると銀杏をたくさん実らせます。

展示棟案内図



- A 玄関**
館内へはこちらからお入りください
- B 管理室**
座敷へお入りの際は、管理員にお声がけをお願いします。
- C 展示室**
含翠園にまつわる品を展示しています。
- D 台所**
水を使われる際はこちらをご利用ください。
- E バリアフリートイレ**
男女兼用、車椅子・オストメイト対応、ベビーチェア備え付けとなっています。
- F 座敷(8畳)**
少人数でお使いの場合は、こちらをご利用ください。
- G 座敷(10畳)**
電気炉がついており、お茶会の場としてもご利用可能です。

※座敷用のテーブルと椅子も無料で貸し出しいたします。



縁側



座敷



床の間

岩内と含翠園の歴史

和 暦	西 暦	歴 史 事 項
宝暦 元 年	1751年	恵美須屋(岡田)弥三右衛門が岩内場所を請負う。
明治 2 年	1869年	蝦夷地が北海道と改称し、岩内の名称も確定する。
明治30年	1897年	岩内支庁が設置される。
明治33年	1900年	岩内町に一級町村制が施行される。 初代町長に梅澤六兵衛(後に梅澤市太郎を襲名)が就任する。
明治37年	1904年	梅澤氏が庭園の造園を開始する。
大正 元 年	1912年	国有鉄道岩内線が開通。
大正 3 年	1914年	庭園の造園が完成する。
大正 9 年	1920年	園内に書院造の建物が完成する。岩内神社が現在地に遷宮。
大正10年	1921年	俳人の巖谷小波(いわやさざなみ)が来町し、庭園を「含翠園」と命名する。 帰厚院本尊大仏が完成する。
大正12年	1923年	詩人・沙良峰夫(梅澤市太郎の孫)、画人・木田金次郎との「含翠園の芸術論争」がある。
昭和29年	1954年	岩内大火が発生するが、含翠園は被災を免れる。
昭和47年	1972年	所有権が鍛元一義氏に移る。
昭和49年	1974年	鍛元氏による庭園の改修が行われる。
昭和52年	1977年	鍛元氏による座敷の改修が行われ、一般町民へ広く解放される。
平成 2 年	1990年	岩内新港が開港し、フェリーが就航する。
平成13年	2001年	庭園の一部が鍛元氏より岩内町へ寄付される。
平成26年	2014年	建物が井筒氏より岩内町へ寄付される。 風致公園として都市計画決定を行う。
平成27年	2015年	都市公園として供用開始する。
令和 元 年	2019年	岩内町における改修事業に着手。
令和 3 年	2021年	含翠園の敷地が現在の形状となる。
令和 6 年	2024年	改修事業が完了し、プレオープンを迎える。

含翠園とは

初代岩内町長の梅澤市太郎氏が、明治37年から大正3年まで10年以上の歳月と当時25万円(現在価値:約9億5,000万円)という巨額の個人資産を投じて造園したもので、優れた庭師であった小林氏が100人近い若者を使って造園したといわれています。



初代岩内町長 梅澤市太郎氏

書院造りの建物は、岩内神社が現在地に遷宮した大正9年に建築されたもので、大工であった丸山氏が施工したものとされています。

梅澤家造園以来、半ば公園的に開放されてきましたが、昭和47年に鍛元一義氏に所有が移りました。鍛元氏もまた、家屋改修、池の管理、樹木の保護等に相当額を費やし含翠園の保存に尽力され、観桜や観楓の季節には町民に公開して感謝されてきた歴史があります。



その後、庭園や建物は鍛元氏や井筒氏からの寄付などを経て、現在は都市公園として岩内町の管理となっています。令和元年より改修事業に着手し、令和6年に完了し、プレオープンの運びとなりました。